

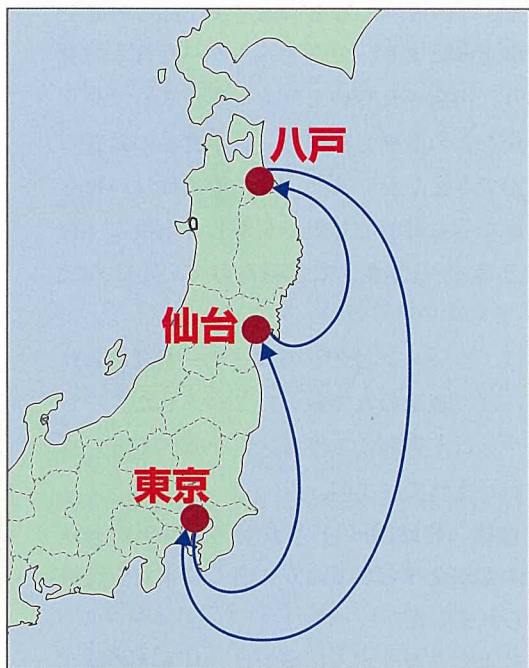
Port of Hachinohe

No. 18
Mar 2006

---Maritime & Trade Report---

●今号の主な記事

- 内航フィーダー航路新設
- 八戸港東南アジアコンテナ定期航路交流ミッション2006
- 2万TEU突破記念「八戸港セミナー」開催
- 2005年八戸港コンテナ貨物取扱量
- 八戸市海外経済協力員レポート
- 青森県輸入住宅促進協議会ニュースレター



内航フィーダー航路新設！

内航海運業の井本商運(株) (本社：神戸市) は、八戸港に新たな航路を開設しました。八戸－東京－仙台－八戸のルートで、東京港での積み替えにより、世界各港と結ばれます。

八戸港国際物流拠点化推進協議会では、3月4日に初入港した「つるかぶと」の歓迎式典と、航路開設の記念祝賀会を開催しました。

今回の新航路により、荷主の皆様にとってサービスの選択肢が増え、利便性が向上します。八戸港のコンテナ取扱量は、昨年初めて2万TEU (実入り) を突破しましたが、更なる増加が期待されます。

お問い合わせ先

井本商運(株)代理店
八戸港湾運送(株)コンテナ事業部コンテナ営業課
〒031-8608 八戸市河原木字海岸16-4
TEL：0178-29-3177 FAX：0178-29-3199

内航フィーダー航路図



初入港歓迎式典の様子



記念祝賀会の様子

八戸港東南アジアコンテナ定期航路交流ミッション2006

八戸港国際物流拠点化推進協議会（会長：八戸市長 小林眞）では、2月4日から10日までの7日間にわたり、タイ（バンコク）とシンガポールを訪問しました。

八戸港の東南アジア航路は、1994年にシンガポールに本社のあるPacific International Lines社（以下PII社）により、東北初のコンテナ定期航路として開設され、10年以上にわたって八戸港の貿易を支えています。今回のミッションは、この航路を活用した貿易の促進を目的として、近年、日本食品に対する関心が高まっているタイを中心に、青森県産品の輸出可能性調査を実施しました。また、PII社を訪問し、八戸港におけるコンテナサービスについて協議したほか、世界のハブポートであるシンガポール港を視察しました。



青森ジャパンフェアの様子



販売好調だった青森りんご



ラーメンコーナーで昼食をとる人々

タイの日本食品事情について

バンコクの伊勢丹で開催されていた物産展「青森ジャパンフェア」の視察や、日本食品を扱うスーパーマーケットの視察、関係機関への訪問、日本食レストランでの食事等を通して、日本食品の状況等について調査しました。

物産展では、青森特産のリンゴやホタテ、ナガイモなどはもちろんのこと、イカやサバなどの水産加工品も好評でした。また、健康志向により、安全でヘルシーな日本の食品が好まれており、出店されていたリンゴ酢が3日で売り切れたほか、海藻などの販売も好調で、日本食品の需要の高さを知ることができました。また、タイの人は甘い物も好きで、団子や餅なども好評でした。しかし、全般に「青森産」というよりは、「日本産」と認識されているようです。

また、会場には、ラーメンとスシのコーナーも設けられており、昼食時には、現地の人で賑わっていました。バンコクのビジネスマンは1週間に1度はスシを食べるというぐらい、日本食が好まれています。

バンコク市内には、約200軒の日本食レストランがあります。気軽に日本食が食べられており、広く日本食が浸透していると感じられました。

今回視察した日本食を販売する店舗では、日本人の駐在員向けではなく、現地の人をターゲットとしており、商品としては冷凍食品やレトルト食品が多く見られました。タイでは、家で料理をする習慣があまり無いため、温めるだけで食べられる物が売られています。日本食レストランで日本の味を知った人が、家でも食べたいと感じて買いに来るようです。

タイでは、品質にこだわらなければ、たいいていの物は、国内で調達でき、豆腐や醤油なども造られています。日本からの輸出を増加させるためには、品質の高い物を厳選したり、日本にしかない、特徴ある商品を生かしていくことが大切だと感じました。また、試食させたり、料理方法や食品の効能を説明しながら売るなど、PRや販売方法に工夫をこらすことも必要です。

PIL社訪問

PIL社では現在、105隻の船を運航しており、今後2年間で、さらに24隻の船を導入する予定で、世界中とのネットワークを構築しています。常にコスト削減や、より充実したサービスの提供を意識しているようです。

八戸港には、週1便で寄港していますが、荷主の皆様からは、増便やリードタイムの短縮についての声も聞かれます。今回の訪問では、会長のY. C. Chang氏やPILジャパン株式会社長のTony Teo氏に対して、航路の維持・拡充についてお願いをし、PIL側からも、八戸港のサービス向上のために検討すべき課題を指摘されました。今後も、協力しながら航路の利用拡大に取り組んで参ります。



PIL社にて（前列右から2人目より小林市長、Y.C.Chang会長、葛西県土整備部次長）

シンガポール港視察

シンガポールは、東南アジアで最初にコンテナ取扱施設を建設した国です。現在、200の航路により、123ヶ国・600の港と結ばれ、1年中稼働しています。昨年のシンガポール港の取扱量は、前年比8.7%増の2,320万TEUで、98年以來の世界一となりました。コンピュータシステムを導入し、1日に約60,000TEUものコンテナを処理しています。世界のハブポートとして、更なる成長をつづけるシンガポール港の能力には、ただ圧倒されるばかりでした。



シンガポール港の林立するガントリークレーン

八戸港情報交換会

シンガポールにおいて、関係機関や企業の方を招き、八戸港情報交換会を開催しました。市長が八戸港や地場産品の紹介をしたほか、会場内に展示・試食コーナーを設け、リンゴ・ナガイモ・地酒・南部せんべい・イカの珍味など、青森の味をPRしました。試食をした人からは、どれもおいしいと好感触でした。



八戸港情報交換会の様子



地場産品を試食する参加者

日本食品はタイ・シンガポールでも非常に好まれており、今後、益々、需要が拡大していくのではないかと感じました。青森県産品の輸出拡大のためには、先ず「青森ブランド」を確立することが必要と思われ、青森県やJETRO等が行っている物産展や商談会も有効に活用しながら、今後も県産品を売込んでいく必要があります。

2万TEU突破記念「八戸港セミナー」開催



あいさつする協議会会長（八戸市長）



講師：PILジャパン(株) 阿部良雄氏



講師：PILジャパン(株) 山本千誉氏



満員のセミナー会場

八戸港国際物流拠点化推進協議会では、2月24日、八戸グランドホテルにおいて「八戸港セミナー」を開催しました。

今回のセミナーは、八戸港のコンテナ取扱量2万TEU突破を記念したもので、荷主・物流関係者など貿易関連企業の皆様約120名が参加しました。

セミナーでは、まず青森県の担当者がコンテナ航路の就航状況や補助金制度、八戸港利用のメリットなどについて説明しました。続いて、東南アジア航路を運航するPIL社の日本総代理店であるPILジャパン(株)の代表取締役の阿部良雄氏、営業課長代理の山本千誉氏から「PILと地方港及び地方港の今後」と題してご講演をいただきました。

国内物流費の削減、環境負荷の軽減、物流のリスク分散など、八戸港を利用することのメリットや、今後の課題等について参考となるお話を伺うことができました。

セミナー後の情報交換会は、1994年の国際コンテナ定期航路開設にご尽力いただいた方々から、当時のエピソードも披露され、大変盛況でした。



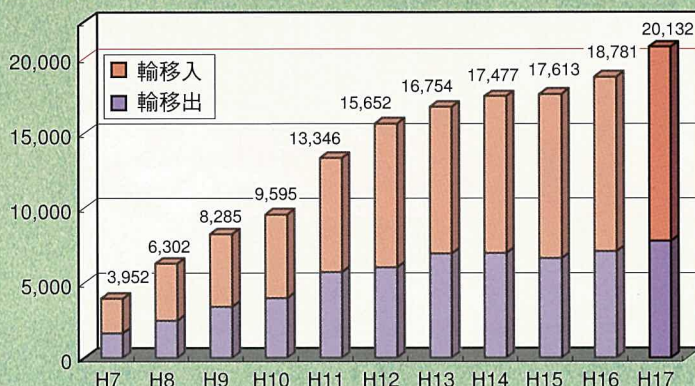
活発に意見交換が行われた情報交換会

2005年八戸港コンテナ貨物取扱量

2005年の八戸港のコンテナ貨物取扱量は、対前年比7%増となり、実入りで20,132TEUを記録しました。航路別では、東南アジア航路、中国・韓国航路で全体の94%を占めております。特に、中国の経済成長を反映し、中国・韓国航路が対前年比11%増の高い伸びを記録しました。

主な取扱品目は、輸出ではフェロニッケル、いか肝粉、古紙、輸入ではタピオカ澱粉、製材、日用雑貨が挙げられます。また、主な貿易相手国は、輸出では台湾、中国、タイ、輸入では中国、タイ、カナダとなっています。

コンテナ貨物取扱量の推移



2005年航路別コンテナ取扱量 単位：TEU

航路	輸移出	輸移入	合計
東南アジア航路	5,431	4,073	9,504
中国・韓国航路	2,233	7,287	9,520
北米航路	138	752	890
内航フィーダー航路	11	207	218
合計	7,813	12,319	20,132

八戸市海外経済協力員レポート

八戸市は、2006年3月現在、海外在住（天津、香港、シンガポール、マニラ、タコマ、ワシントンD.C）の6名に「八戸市海外経済協力員」を委嘱し、現地の出来事や経済状況をレポートしていただいております。

また、八戸地域の企業等が協力員の在住都市を訪問する際には、協力員に現地事情の説明等をしていただけることになっておりますので、ご希望の方は八戸市経済部産業政策課（TEL0178-43-2111 内線308）までご連絡ください。

REPORT1

シンガポールレポート



朝日新聞インターナショナル
主任
樋口 見子さん



ビルの入口周辺は気の流れが良くなる「丸い玉&噴水」が多くみられる

風水、言い伝えて運氣アップ

街全体が風水

シンガポールの民族構成は中国系 76.8%、マレー系13.9%、インド系7.9%、その他1.4%。また、5人に1人が外国人という人種のるつぼの国です。各民族のお正月やお祭りなどが祝日や行事となり、お互いの文化を尊重しています。

私は日本人だからでしょうか、一番自国の文化に近い中国に興味があります。日常で面白い話を聞くことが多いからでしょう。

人口で占める割合が高いのと建国者が中国系のせい、建物や室内など街のあらゆる所で風水の影響がみられます。例えば、金融街も風水で場所を選びました。川が海に流れる境にお金が集まる理由からです。また、各銀行本店ビルも良い方角の東や南向きが多く、気の流れが良くなるよう空間を用いたデザインなど、風水にそった設計がみられます。

大きなビルにはたいてい1階に噴水や水が流れるようなデザインがあります。常夏の国だから、目で涼しむのではなく、これも気の流れがよくなる風水なのです。噴水より多くみられるのが、石でできた丸い玉が水の流れでくるくるまわるタイプです。このデザインを選ぶビルのオーナーは中国系が多いです。

シンガポールで一番大きなデパートの高島屋は、昔は福建出身者の方達が眠る墓地でした。お墓は建築の際に移動しましたが、元の住人が賑やかな方が好きだということで、地下

に大きな会場を作り、常に賑やかな催しものを行っています。また、建物内を歩いて、地下鉄の駅まで行けませんが、彼らがついていけないように、わざと迷う設計になっており、私も最初はかなり迷いましたが、すぐに分るようになりました。

干支の小話

今年は犬年ですが、中国系の方は中国正月から犬年になり、1月29日から該当します。先日、友人の水晶ジュエリーの買い物に付き添ったとき、干支（英語ではTwelve Animals）を聞かれたので、「ビッグ（猪は当地では金運を呼ぶ豚）」と答えたら、上が豚、下が虎の組み合わせの携帯ストラップをおまけにくれました。中国では縁起の良い干支の組み合わせがあり、もう一つの方が援護してくれるので、お守りとして大切にするように言われました。本来中国は干支の12番目は猪のようですが、チベット、タイ、ベトナムは猪は「豚」、兎は「猫」など国によって少し違います。

シンガポールでは、最近出産の際に無痛分娩を選ぶ方が多く、この場合は午前、午後などの時間指定ができます。年によっては干支にあわせて、縁起を担いで時間を決める方もいます。昨年の鶏年は朝から働く鶏は午前出産だと一生働きづめになるそうで、午後を指定する人が多かったようです。今年の犬年は特にそのような説はなく、いつでも大丈夫とのことでした。



金融街ラッフルズプレイスには風水を取り入れたビルが多い

Lighting Symphony in 八戸ポートアイランド

(株)八戸港貿易センターでは、都市再生・まちづくりを国が支援する「平成17年度全国都市再生モデル調査」として、「港にぎわい おんでやあんせプロジェクト」を提案し、採択されました。

今回、八戸港貿易センタービルとポートアイランドの新たな利活用方法を探る目的で、「Lighting Symphony in 八戸ポートアイランド」と題し、クリスマスに合わせて様々なイベントを開催しました。



◆◆◆ イルミネーション点灯式 ◆◆◆

12月10日(土)

イベント初日のイルミネーション点灯式には、多くの人が訪れました。

知恵蔵組による楽しいサンタクロスダンスの後、八戸港貿易センタービルの壁面に飾り付けられたイルミネーションが一斉に点灯されると、会場からは大きな歓声があがりました。イルミネーションをバックにゴスペルライブが行われ、会場は一足早いクリスマスの雰囲気になりました。



サンタクロスダンス

◆◆◆ バイオイルミNight! 2005 ◆◆◆

12月24日(土)

八戸エコのみアカデミーが主体となり、環境への関心を高めてもらうために、廃食油を使ったキャンドル作りやエコ工作体験、自然エネルギーを使った発電の展示が行われました。1階のホールでは、ヤマハ音楽教室の生徒さんによる演奏会やジャズライブも行われ、大勢の家族連れで賑わいました。

会場の様子は地元のコミュニティFM局のBeFMによって中継され、八戸青年会議所による打上げ花火で、全てのイベントのフィナーレとなりました。

来場者からのアンケートには、せっかくの土地や施設をもっと活用するべきとの意見が多く見られ、市民参加型のイベント開催の要望も多くありました。今回の取組みは、今後の港湾地域活性化に向けて、貴重な経験となりました。

◆◆◆ レストラン de みなとシアター ◆◆◆

12月10日(土)

NPO法人ACTYが主体となり、イルミネーション点灯の後、八戸港貿易センタービル1階ホールにてクリスマスにちなんだ映画の上映が行われました。会場ではクリスマスフードも出され、来場者はゆっくりと映画を楽しんでいました。

◆◆◆ クリスマス国際屋市 ◆◆◆

12月10日(土)~11日(日)

八戸港貿易センタービル前の広場を使い、二日間にわたってヨーロッパのクリスマス市をイメージした昼市が開催されました。会場では、雑貨や輸入食材、世界各国の食べ物など多様な商品が並び、港に関連したクイズ大会も行われました。11日(日)はビルの1階ホールでジャズライブも行われ、訪れた人の耳を楽しませました。



クイズ大会



キャンドル教室



ヤマハ音楽教室の演奏会



フィナーレの打上げ花火

上海に売り込め 青森県産品！～2年目の挑戦～

1月12日～16日、中国上海市において、商談会、セミナー、バイヤー等を集めてのレセプション、市内スーパーでのPR活動等、県産農水産品の輸出促進活動を行いました。昨年度に引き続いて、2年目の取組みですが、参加者からは、「去年参加した時は、中国市場開拓には10年かかるのではないかと思ったが、5年かからないかもしれない」といった見方も出る程、明らかに1年目とは、現地の反応が異なっています。

上海市では、2010年に国際博覧会が開催されるなど、今後も経済成長していくものと考えられ、上海市に青森プ

ンドを売り込むことができれば、中国の他の地域への市場拡大も可能になると思われます。

これからも根気よく、県産品の優れた品質・食味を理解してもらえるようにしていけば、中国市場への県産品の輸出量が今後も拡大していく可能性があることを強く感じました。



レセプションでは、知事も関係者と一丸となりPR



水産加工品の販路拡大にも期待

お問い合わせ先

青森県農林水産部 総合販売戦略課
消費宣伝グループ

TEL : 017-734-9607 FAX : 017-773-2691

山海こどもサミット～おんでやあんせ八戸港～ 第2弾 牧場見学と美術ワークショップ in 七戸

12月4日、八戸みなとまちづくり市民フォーラム（横沢孝子代表）主催による「山海子どもサミット～おんでやあんせ八戸港～第2弾 牧場見学と美術ワークショップ in 七戸」（WAVE港・海辺活動振興助成事業）が開催されました。今回は、八戸と七戸の小学生と一緒に八戸港の見学と港の学習会、写生大会を行った、7月の「こどもサミット」の第2弾となる継続行事です。

再会した約30名の子供達は、一緒に牧場見学した後、7月に描いた絵が展示されている鷹山宇一記念美術館で作品鑑賞したり、クリスマスカードをつくる美術ワークショップを行い、相互の交流を深めました。

参加された皆さんからは「クリスマスカード作りは難しかったけど楽しかった」、「馬にえさを与えるのが楽しかった」などの感想を聞くことが出来ました。

この企画は、参加申込みが多く、好評だったことから、来年度も継続して実施していく予定です。



鷹山宇一記念美術館での作品鑑賞



美術ワークショップ：クリスマスカード作り

お問い合わせ先

八戸市建設部港湾河川課

TEL : 0178-43-2111 (内線) 338 FAX : 0178-24-6186

八戸港の貿易概況報告 (2005年1月～12月)

039-1162 青森県八戸市豊洲3-9 八戸港貿易センター3階
 日本貿易振興機構 (JETRO) 八戸情報デスク TEL:0178-72-1850 FAX:0178-72-1503

<概況>

輸出額の主な品目別では、主力のフェロニッケル・紙製品・船舶等の好調により増加(歴代1位)。主な仕向国別にみると、台湾・韓国・パナマなどが挙げられる。輸入額の主な品目別では、コークス等・金属製品・糖蜜の好調により大きく増加(歴代2位)。主な仕出国別にみると、米国・オーストラリア・中国などが挙げられる。輸出入額合計では、1,905億649万円と過去最高となった。コンテナ貨物通関本数は東南アジア航路を中心に伸び、輸出入合計で2万本を越えた。

■平成17年1月～12月の貿易額 (単位：千円)

※資料：八戸税関支署発表の貿易統計から抜粋

輸 出

品名	単位	今年累計		前年対比 累計%	
		数量	価格	数量	価格
船 舶	NO	8	14,241,500	160.0%	115.1%
フェロニッケル	MT	125,571	35,437,320	123.2%	120.5%
有機化学品	KG	1,532,025	448,934	86.1%	90.6%
紙 製 品	MT	5,803	766,291	126.4%	148.6%
一 般 機 械	MT	3,029	889,966	55.8%	91.3%
鉄 鋼 製 品	MT	10,902	1,103,940	38.3%	80.2%
飼 料	MT	9,051	485,922	108.2%	115.7%
魚 介 類	MT	6,991	872,716	87.6%	115.1%
亜 鉛 塊	MT	0	0		
電 気 機 器			13,216,774		78.2%
そ の 他	—		3,302,951		164.5%
合 計	—		70,766,314		108.5%

輸 入

品名	単位	今年累計		前年対比 累計%	
		数量	価格	数量	価格
ウッドチップ	MT	804,621	13,640,393	100.8%	106.9%
とうもろこし	MT	850,161	14,113,361	99.7%	86.7%
ニッケル鉱	MT	2,721,168	20,411,854	108.4%	120.5%
木 材	CM	100,534	2,450,808	105.9%	97.2%
亜 鉛 鉱	MT	160,618	7,051,389	98.2%	132.2%
大豆粕	MT	219,829	7,322,522	123.0%	110.1%
魚 介 類	MT	12,880	5,199,167	151.4%	117.5%
飼 料	MT	58,839	1,767,152	117.6%	124.2%
石 炭	MT	799,949	6,327,114	96.9%	122.5%
こうりゃん	MT	181,993	3,095,881	101.1%	91.3%
ウッドパルプ	MT	22,153	1,254,934	98.2%	94.7%
カオリン	MT	132,577	2,775,826	88.5%	97.3%
肥 料	MT	13,991	340,395	25.3%	23.5%
重 油 等	KL	183	9,572	1.0%	1.6%
コークス等	MT	109,959	3,064,767	105.3%	134.7%
鉛 鉱	MT	55,868	2,772,185	100.2%	127.5%
金属製品	MT	3,739	1,502,435	108.8%	146.8%
その他穀物	MT	12,171	204,324	71.5%	65.4%
糖 蜜	MT	6,477	93,092	102.4%	184.4%
一般機器	MT	1,618	932,606	61.5%	94.4%
そ の 他	—		25,410,403		137.4%
合 計	—		119,740,180		112.5%

●コンテナ貨物通関額 ()内は前年対比

輸 出	379億 834万 (110.8%)
輸 入	270億7892万 (110.4%)

●コンテナ貨物通関本数 ()内は対前年比

輸 出	7,783TEU (107.9%)
輸 入	12,720TEU (105.8%)
合 計	20,503TEU (106.6%)

急増する日本食レストラン ～英国～

日本貿易振興機構 (JETRO)
 青森貿易情報センター
 TEL 017-734-2575
 FAX 017-773-2877
 〒030-0802 青森市本町1-2-15 青森本町第一生命ビル5階

英国の日本食レストランが急速に増加しています。2005年時点では約400店舗と、1995年の23倍に達しました。

好景気を背景に外食産業は急成長しており、99年から03年までの5年間でレストラン企業数は15%増加しています。中でも、急増しているのがタイ料理と日本食レストランで、95年から05年の10年間で、それぞれ約43倍(約900店舗)、約23倍(約400店舗)となっています。

レストラン専門誌の編集者ピート・グローブ氏は「日本食レストランは4年前のブームで急増したタイ料理レストランと同じ勢いで増えており、市場規模、人気ともに大ブレイクする寸前である」と語っています。

いくつかの日本食レストランに食材調達について聞いたところ、魚介類に関しては、エビやタコ、イカなどは現地の業者から調達し、現地にある日系卸売業者からはすしネタを中心に調達しているそうです。しかし、英国では生の魚を食べることに対する理解が薄く、業者の鮮度管理や扱いが日本食レストランの望む水準に達しないケースが多いといえます。

また、野菜は現地市場でほとんど調達できるということです。

一方、日本固有の加工食品は日本からの輸入に頼らざるを得ません。例えば、油揚げ、納豆、みりん、味噌、そば、うどん、地酒、焼酎、餃子の皮、かつお節、わかめ、海苔、ウニなどで

す。ただし、以上の品目の中で、日本ブランドであっても日本以外で生産しているものも見受けられます。

<多様な日本食レストラン>

日本食レストランの中には、約5万人といわれる在留邦人をターゲットにしている店もありますが、これはあまり増えていません。

近年、増加しているのは英国人をターゲットとした日本食レストランで、さまざまな食を楽しむ高所得者層を対象にした高級店から、ランチタイムのテイクアウトとしてあまり高くない値段で寿司や丼物を提供する店まで多様です。

味については本来の日本食と異なる料理を提供するジャパニーズ・レストランも見受けられます。これらのレストランも日本食の普及にはある程度寄与していますが、一定の味を確保した上で料理を提供しているタイ料理レストランとは異なっています。

また、日本食レストランの値段は中華料理やタイ料理レストランと比べて一般的に高く、まだ所得の低い層が気軽に食べに来るというものにはなっていないようです。

(以上、ジェトロフード&アグリカルチャー2574号より一部抜粋。)



輸入住宅の基礎知識

「輸入住宅」という言葉を聞いて、どんな住宅で、どういう特徴があるのか、すぐに思い浮かぶでしょうか？このコーナーでは、「輸入住宅」に関する基本的な情報をご紹介します。

「輸入住宅」はどんな住宅？

輸入住宅と言っても、法律で決められた基準があるわけではありません。輸入住宅とは“海外から輸入された住宅”を指しますが、実は海外の住宅をそのまま輸入して建築することはとても難しいのです。海外の部材の中には、日本の法律では使えないものもありますし、生活習慣の違いから、間取りを日本の仕様に合わせることも必要になります。ですから一般的に輸入住宅と呼ばれているものは、海外のデザイン、工法をベースにして、日本に合うようにアレンジした家、ということになります。

“海外から輸入された住宅”と言っても、その「海外」は様々です。主流はカナダ・アメリカの北米スタイルと、スウェーデン・フィンランドなどの北欧スタイルです。ともに厳しい気候風土に培われた、豊富な森林資源を使用した「木の家」です。最近では丸太を組み合わせるログハウスも人気を集めています。また、プロヴァンス風の南欧スタイルもそのデザインで人気が高まっています。オーストラリアやニュージーランドも日本への輸出促進を図っていますし、東南アジアではコストを抑えた部材が作られるなど、輸入先は多様化しています。

輸入住宅と言っても、デザインから設備まで、できる限り海外のものを忠実に再現しているものから、デザインを取り入れても部材の多くは国産だったり、間取りが和洋折衷タイプなど、その取り入れ方は様々です。輸入住宅をお考えの際は、デザイン面だけではなく、その特徴をよく理解し、ご自分のライフスタイルに合うか、よく業者と相談することをお勧めします。



ツーバイフォー工法設計セミナー開催

青森県輸入住宅促進協議会では、10月27日(木)、カナダ林産業審議会（COFI）と共催で「ツーバイフォー工法設計セミナー」を八戸港貿易センターにて開催致しました。カナダ林産業審議会は、日本でのカナダ産木材製品のPRの他、カナダの木造建築の紹介やツーバイフォー工法の普及・啓蒙活動を行っています。

セミナーは、アルス一級建築士事務所 代表 諏訪間 勉氏を講師に迎え、ツーバイフォー工法の基本から、デザインの可能性、実例を使った構造計画の解説など、具体的な内容を中心に行われました。

当日は、地元のハウスメーカーなどから60名が参加し、実際の業務に活かすため、真剣に耳を傾けていました。

終了後のアンケートでは、今後希望するセミナー内容として、「建築基準及びスパン表について」が最も多く挙げられ、次いで「建築資材について」と「省エネルギーについて」の要望も挙げられていました。

AIRA会員募集

AIRAでは輸入住宅を取扱っている、または今後取扱を希望している、住宅・建材関連企業の方々を募集しています。AIRA会員には以下のような特典があります。

1. ジェトロ推薦講師によるセミナーへの参加。
2. 貿易センターの施設が優待料金にて使用できる。
3. 各種貿易相談を受けられる。
4. 輸入住宅および部材についての情報が受けられる。
5. 輸入住宅海外視察ミッション等への参加（自己負担あり）ができる。

AIRA：青森県輸入住宅促進協議会 事務局

〒039-1162 青森県八戸市豊洲3-9 (株)八戸港貿易センター内

Tel : 0178-72-1505 Fax : 0178-72-1503

<http://www.aira.ne.jp>

カタログ・資料をご希望の方はAIRA事務局へ。送料とも無料でお送りします。

■AIRA会員

会社名	連絡先住所	電話
丸喜株式会社青森組	青森市中央二丁目1-17	017-777-3329
株式会社ピアス	八戸市豊洲3-9 八戸港貿易センター4階	0178-72-1513
株式会社黄金工務店	青森市造道二丁目10-17	017-741-8451
株式会社ファーストインターナショナル	八戸市廿三日町2 YSビル3階	0178-71-2282
南部木材株式会社	八戸市吹上二丁目1-13	0178-45-4331

Aomori Import Residence Association

<住所は全て青森県内です>

会社名	連絡先住所	電話
株式会社角弘	青森市新町2-5-1	017-723-2222
株式会社鎌田建設工業	青森市浜館一丁目18-10	017-741-2063
グッドワークトレーディング有限公司	八戸市豊洲3-9 八戸港貿易センター2F	0178-72-1560
株式会社テオー小笠原	青森市造道三丁目6-3	017-736-2000
有限会社アメリカンスタンダードホーム	八戸市青葉三丁目2-25	0178-44-1011


Aomori Import Residence Association

コンテナ航路		船社名等	集荷代理店	寄港間隔	主な寄港地
外航	東南アジア航路	PIL	八戸通運	1便/週	[寄港地] 台湾(基隆、高雄)、中国(香港)、韓国(釜山、光陽)、シンガポール [接続地] 東南アジア全域、豪州、欧州、南米、他
	中国・韓国航路	南星海運(株)	八戸港湾運送	2便/週	[寄港地] 韓国(釜山、光陽、蔚山)、中国(上海、青島、大連) [接続地] 中国、欧州、北米、南米、豪州、他
	北米航路	WSL	八戸港湾運送	1便/月	[寄港地] アメリカ(シアトル)、カナダ(バンクーバー)
内航	内航フィーダー航路	(株)横浜コンテナライン	八戸通運	1便/週	[寄港地] 横浜 [接続地] 世界各地
		井本商運(株)	八戸港湾運送	1便/週	[寄港地] 東京 [接続地] 世界各地

PIL : Pacific International Lines (Singapore) WSL : Westwood Shipping Lines (U.S.A)

主な寄港地～八戸港の所要日数(最短)

寄港地	所要日数(日)	
	輸出	輸入
釜山(韓国)	4	4
光陽(韓国)	5	10
蔚山(韓国)	5	8
基隆(台湾)	7	6
高雄(台湾)	8	7
香港(中国)	9	9
大連(中国)	6	8
青島(中国)	7	7
上海(中国)	7	7
天津(中国)	9	8
寧波(中国)	9	9
蛇口(中国)	11	13
シンガポール	14	14
ジャカルタ(インドネシア)	17	22
バンコク(タイ)	17	20
レムチャバン(タイ)	17	17
マニラ(フィリピン)	20	21
ホーチミン(ベトナム)	20	20
ロングビーチ(米国西岸)	16	18
シアトル(米国西岸)	21	13
チャールストン(米国東岸)	30	23
ニューヨーク(米国東岸)	29	22
バンクーバー(カナダ)	23	13
ブリスベン(オーストラリア)	25	17
オークランド(ニュージーランド)	25	26
サウサンプトン(イギリス)	29	35
ルアーブル(フランス)	30	35
ブレーメルハーフェン(ドイツ)	32	35
ロッテルダム(オランダ)	33	30



貿易Q&A

(株)八戸港貿易センターは、世界に開かれたみなと八戸港と私達に深く係わる貿易をもっとよく知っていただくために様々な活動を行っております。ここでは貿易に関する基本的なQ&Aをご紹介します。

Q 輸入品に対する税金はどういうものがあるの？

A 貨物を輸入する場合、輸入者は関税と輸入消費税(消費税・酒税等)を支払わなければなりません。関税は、品物によって課税される物とされない物がありますが、消費税については原則全てについて課税されます。関税は輸入申告時の貨物の価格または数量を基礎として算出されます。輸入消費税は、輸入貨物の代金に海上運賃と保険料と関税を加算した合計額に課税されます。

関税の税率は品物によって決められていますが、基本の税率のほかに関税途上国からの輸入品に対して適用される特惠税率や、世界貿易機関(WTO)加盟国に対して一定率以上の関税を課さない協定税率などがあります。

個人輸入や小口の貨物では、国際郵便や国際宅配便を利用するケースがありますが、その場合の関税は、貨物の受取の際に郵便局や宅配業者に支払うことになります。

編集後記

最近では世界各地で日本食がブームになっているようです。青森県をはじめ、各自治体では、地場産品の輸出に積極的に取り組んでいます。一方で日本の食糧自給率は年々下がっています。

自給率とよくいいますが、畜産品の場合は飼料の自給率も関係しているそうです。豚肉の生産量としては、自給率60%だそうですが、その豚を育てる餌の自給率は10%なので、60%×10%で豚肉の自給率は6%になるという計算です。普段何気なく聞いている言葉でもその中身は知らないことが多いものですね。

食糧自給率は昭和40年代には70%でしたが、最近では40%を切るほどにまで落ち込んでいます。自給率の低さに危機感を感じている人が90%いるという話題も出ていましたが、実は日本の輸入食糧の2割は食べ残しなどで捨てられているのだといわれています。自分の食生活はどうかと考えさせられました。

海上コンテナ輸送の御用命は「八戸港国際物流拠点化推進協議会」加盟の各社へ

八戸通運株式会社(海運営業所)	TEL: 0178-29-0202	FAX: 0178-20-3281
八戸港湾運送株式会社	TEL: 0178-29-3177	FAX: 0178-29-3119
新丸港運株式会社	TEL: 0178-20-2321	FAX: 0178-20-2353
八戸運輸倉庫株式会社	TEL: 0178-28-2401	FAX: 0178-28-6976
三八五流通株式会社	TEL: 0178-52-7755	FAX: 0178-52-7751
日本通運株式会社八戸支店	TEL: 0178-27-3311	FAX: 0178-27-5520
ナラサキスタックス株式会社八戸支店	TEL: 0178-20-1651	FAX: 0178-20-2444

青森県・八戸市・八戸商工会議所・八戸港振興協会
 株式会社青森銀行・株式会社みちのく銀行・八戸信用金庫



八戸港国際物流拠点化推進協議会 Hachinohe Port Promotion Commission
 〒031-8686 青森県八戸市内丸一丁目1-1 八戸市経済部産業政策課内
 TEL: 0178-43-2111 (代表) e-mail: hppc@hi-net.ne.jp Homepage: www.hi-net.ne.jp/hppc
(株)八戸港貿易センター Hachinohe Port Trade Center Co., Ltd.
 〒039-1162 青森県八戸市豊洲3-9 八戸港貿易センター3階
 TEL: 0178-72-1505 FAX: 0178-72-1503 e-mail: mail@hptc.co.jp Homepage: www.hptc.co.jp



二〇〇六年三月発行
 発行所 八戸港国際物流拠点化推進協議会・(株)八戸港貿易センター
 企画編集 (株)八戸港貿易センター